

観自在

弘長寺寺報
第二十八号
平成二十六年
新春(年
二回発行)

ああ、感動！ 弘長寺開基様

「藤原満資公」に埼玉県で出逢えました

弘長寺住職 森田裕光

あけましておめでとございます。

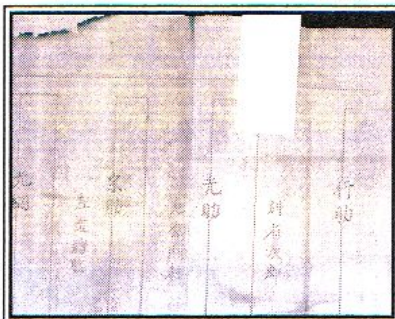
平成二十六年の幕が開きました。

昨年は住職にとつて寺族：妻春美を亡くした辛い年でありましたが、本年は平穏な年になりますように祈りたいと思います。

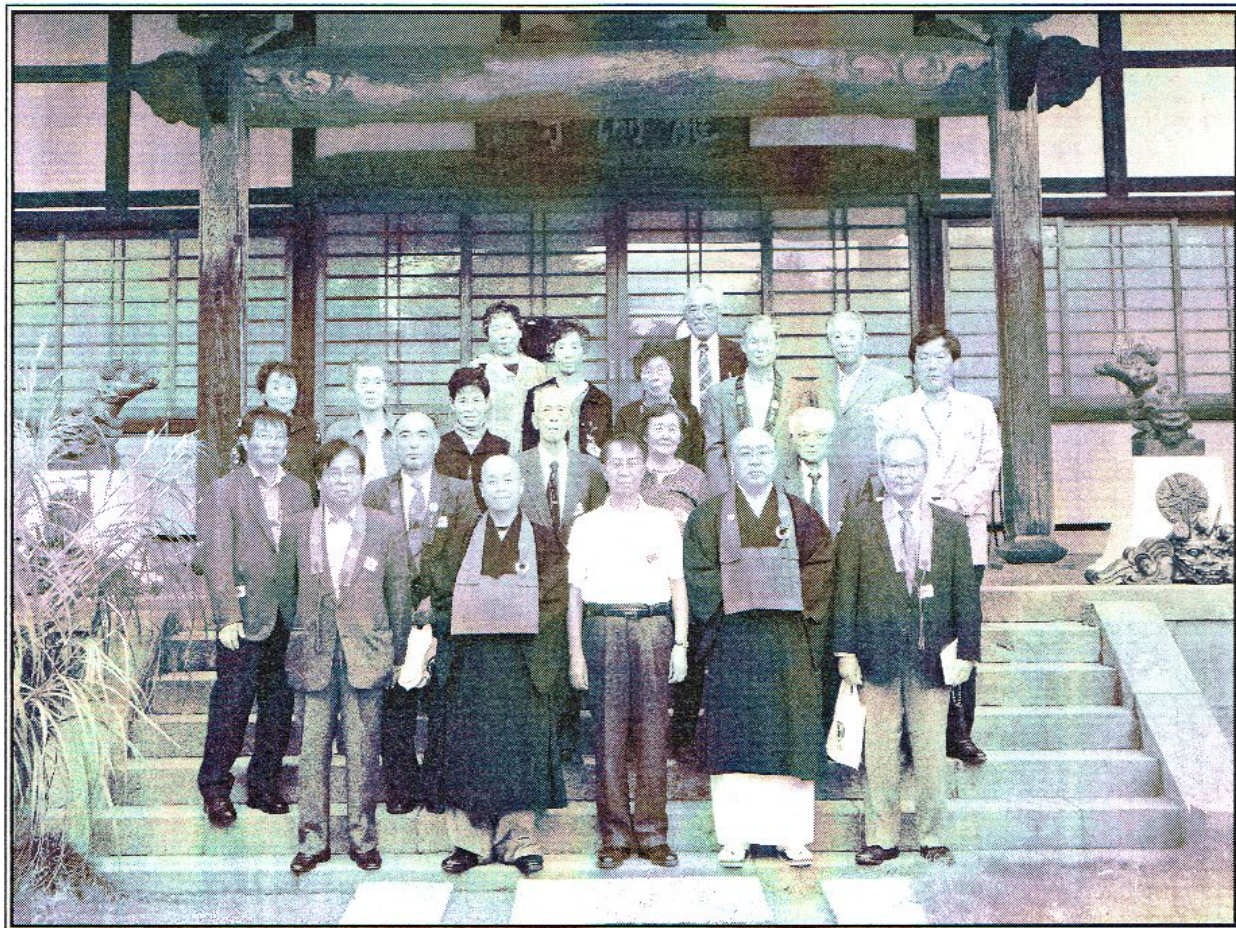
昨年十月九・十の二日間、護持会主催・弘長寺開基「藤原満資公」のルーツを求める旅に出かけました。

折しも台風二十四号が九日朝に島根県沖を通過、空港出発は午後遅くなつてからと思われたのですが、何とほぼ定刻通りに飛び立ち、目的地の龍淵寺様にて、近年火事で全焼した伽藍から奇跡的に焼け残った成田氏(本姓藤原氏)系図に出会え、「光助」(改名前)の名を確認できました。

同行した妻の位牌を抱き、天候回復への祈りが仏様に届いたのでしよう。
島大名誉教授、井上先生の御指導を仰ぎながらの素晴らしい研修旅行となりました。



別府成田氏
光助の名を発見



埼玉県熊谷市龍淵寺様にてご住職と共に
前列中央は井上島大名誉教授

新年のご挨拶

弘長寺護持会
会長 武田民三

弘長寺護持会の皆様、明けましておめでとうござい
ます。

新春を迎え、皆様には益々
ご健勝のこととお慶び申し
上げます。



目本堂大改修落成慶から二度
先祖正月の報恩感謝のお氣
持ちはよい層強くなされた
敬念をい層強くなされた
この尊い心を子や孫たち

に是非伝えたいものです。

立派になつた伽藍を、子
孫が大切に思い、手を合
せる心で受け継いでほしい
と強く思わずにはおられま
せん。

私達が子孫に対し誇りに
し、伝えておきたいことは、
「新築ではなく修築、貴
重な伝承すべく部分を遺し
かた」ことではないでしょう

がなんでも新しくすること
が最良ではないのです。

近年、地球環境が非常に
悪くなり、これが現実のも
の悪くなり、来ていますね。

伊豆大島の台風被害や、
フイリピン台風など、今
まで起つたこともない
破壊力の巨大台風など、
自然災害が深刻化、日本
島の気象も南太平洋の国
じい象となつています。あ
らねられてはいます。あ
らねられてはいます。あ

資源やエネルギーの消費
を抑える生活習慣の消費
のです。子孫に残したいも

に手を合わせ祈る心ととも
に、親としてそれを実践す
る姿で示して見せること
を受け継いでもらえると信
じます。

大自然を礼拝し、その恩
恵に感謝し、手を合わせる
習慣を育てることが、親と
思ひます。大切な使命であ
ります。

「お釈迦さまの教えである
と、山川草木国土悉皆佛
の心を伝えようではありま
せんか。」



五回納め、余すところ
げ檀家の迎え、円成結
実するときは、真心が
共に慶び合います。

本年が皆様にとり、至福
の年であり、ますよう、心
と祈りし、新年のご挨拶
とらいたします。

合掌

新年にあたり

弘長寺護持会
副会長 坂本研次

みなさまには、平成二十
五年をふりかえり、万感こも
ごも迎えるなかで新しい年を
お迎えのことと思ひます。

昨年は島根県西部の洪水
被害をはじめ、全国各地で
異常気象による災害があり
ました。幸いに来待では、
夏の猛暑に見舞われたとは
云え、大きな天災を免れ、
稔り豊かな秋となりました。

太古から脈々として続け
られて来た「豊かな里づ
り」の賜物です。

イネをはじめヤサイや果
物はもとより、山野の草木、
菌類などすべて、植物や家
畜などはじめ鳥獣、魚介、
虫など、あらゆる生物が人
と共に生きています。

そして宇宙間には数限り
ないものが存在して、お
りが有ると説かれていま
(森羅万象悉有仏性)。

新しい年を迎え、この一
年に諸仏に感謝しながら自
然に逆らうことなく、ごら
たいと念じています。

が改修になった本堂の屋根が立派になりました。本堂内部が明るくなり、境内もきれいになりました。

平成二十六年年度をもって改修築事業費の抛出を了えることになりましたので、何卒よろしくおねがい申し上げます。

今年が平和で、お寺をはじめお檀家各位にとって良い年でありますようお祈りいたします。

合掌

お知らせ

お願い

●ご法事での仕上げの席にはつけなくなりました

大変申し訳ないのですが、住職は糖尿病と診断されてしまいました。

現在食事療法と運動で治療のため、今後は仕上げの席は遠慮させて頂きますのでご了承下さいませ。

本堂でのお寺詣りが終わった時点で失礼させて頂いたいただきます。又、徒弟大裕も同じく遠慮させて頂いたいただきます。

●葬儀には大裕を必ず役僧につけます。又四十九日も大裕と二人で修行いたします。

大裕が今後、住職として立派に檀務や寺院経営ができるよう教えてゆきたいと思えます。

葬儀は必ず役僧につけます。又四十九日だけは必ず二人で参りますので、よろしくお願ひいたします。

現在七日参りや上げ法事、そして宅行き法事もどんどん行かせております。

まだ駆け出しで一人前とはいかないですが、どうか温かい目で見守ってやってください。

●転読大般若祈祷会を行います

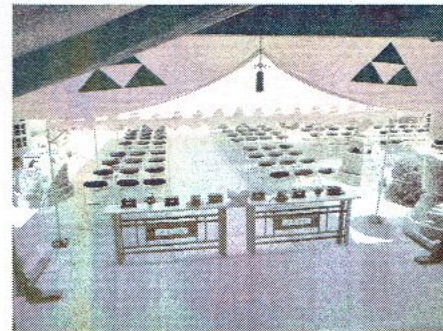
本年も転読大般若祈祷会を厳修いたします。

四月十三日(日)午後二時、法話はいつもの通り住職が行います。

近づきましたらご案内いたします。是非お詣り下さいませ。

当山寺族・春美本葬

八月十日、当山寺族・住職妻・春美が五十六歳の若さで他界いたしました。



三月頃から不調を訴え、中々原因が判らず、市立病院の再検査で「膵臓癌」が判明しました。

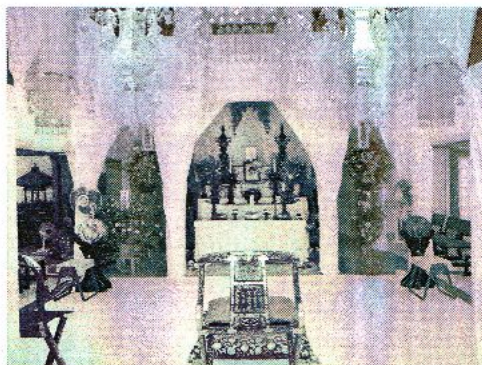
出雲の医大に転院して開腹しました。手術不可能となっていました。

膵臓の裏側に大きな癌腫瘍ができていて、胆管を圧迫し、黄疸がでて、痛みと痒み(かゆみ)の壮絶な闘病となりました。

どうしても帰りたい、医者への止めるのも聞かず、六月に約一ヶ月帰宅しましたが、もはや消化機能が破

壊されて、激痛・おう吐の悲惨な毎日でした。

七月医大へ再入院して、やっとなり痛剤がマツチして、穏やかに全効かた、緩和抗がん剤も移った後、八月市立病院へ再転院し、十日に残念ながらとうとう亡くなりました。



賜り、ご参列いただき、ご焼香を賜り、またご重なるご資を賜り、皆様の並びに、寺族の信の皆様の、同級生の方々、懇志の皆様、誠に有り難く、この誌面を通じて感謝御礼申し上げます。

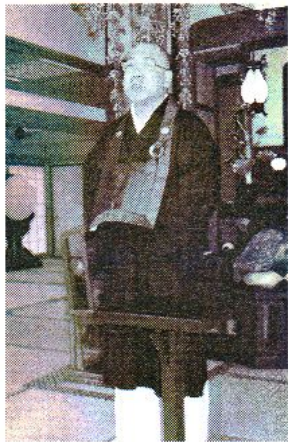
本葬、護持会長の弔辞を掲載させていただきます。

埼玉・龍淵寺、忍城 護持会研修旅行

住職

出発前日八日、BS観光の車谷さんと私は共に危機感を感じていました。「はたして明日飛行機が飛び立つのか？」

一ヶ月前、第二教区主催の護持会研修バス旅行が台風・順延されたばかりだったからです。最大風速五十メートルがやや衰えはなかつた。強い台風が変わ



進路が、九州北部から島根県へ直撃との予想がされていたのです。「最終便が出雲空港に到着してさえいれば、九日のお昼過ぎで遅くなっても出ましよう。それに賭けましょう。」その時は忍城見学はやめにしました。

ほぼあきらめ心で空港に

到着すると、予想外に台風風の速度が速まって次第に風も弱まり、何とほぼ定刻に飛び立ってしまいました。羽田到着からは、中型バスに乗り換え一路熊谷龍淵寺様へ向かいました。きつと口から生まれられたであろうガイドさんのユーモラスで絶妙なガイドを心地よく耳にしながら渋滞もなく順調なバスの旅でした。車中にて島大名誉教授・井上先生に講習をしていた



だきました。その時に、「別府成田氏に、字が違うのだが、光助(ミツスケ)という人がいる。」

① 住職は考える

正伝の仏法を

疑ってみる
(禁断の領域に入り込んでみる)

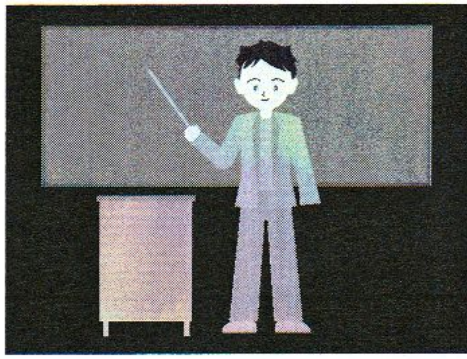
・信ずることほど

難しいものはない

住職

確か小学校5年生の時だったと思う。

算数の授業で、担任の先生が教室に入るなり問題を黒板に書き、「この問題が解けた人に限り、この時間は運動場に出て自由に遊んでもよい」とのこと。



「ヤッター」と全員大喜びです。確か三桁×三桁のかけ算の問題でした。

私は「この時間イタダキー」と、いの一編で先生の所へ持って行ったら、即×マークを喰らいました。

おかしいなーと思いがながら検算をするのだが、自分では間違っている箇所が見当たらない。

全員が持つて行くのだが、全員×マークをもらっていません。

足し算しようが引き算しようが、何回持つて行ってもやはり×なのです。

結局、誰一人運動場で遊ぶことはできずに、その算数の時間が終わってしまっ

た。授業の最後に先生がこうおっしゃったのです。

「今君たちが持つてきた答えは、全部正解だったんだよ。」

その合ってる答えを、「この答えは絶対合っていないです。」

これを違うというのなら、先生の方がおかしいんじゃないか。って何故言えないんだ。」と叱られました。

先生それはないよー、だって先生は絶対だと信じていたのにそれはおかしいよー、とその時に思ったものです。



この時の衝撃は大きく、いまだにその時の事を鮮明に覚えてい

る。正しいと思ったらその思いを通すべきだということと、何事も、何人も簡単に信じ切つてはいけないというこの二つを同時に学んだ。

この例話がある布教研修会の場合で実演発表したら、その時の講師であったひろさちや先生が早速自著の本に載せられていた。

道元禅師様は柔軟心が奸容と示されている、安易に頭ごなしに信じ込まず、よ

くよく自分の眼と資料や証拠により得心して臨め、と私には理解出来ず。当にこのことでありましよう。

この件以後、私は何事も簡単に信じ込まない作法を身につけたと言えます。

その作法により最近の宗門を見てみると、信じられないどころか開いた口がふさがらないことばかりであります。

・なんたる体たらくぞ

週刊誌や新聞で大々的に報じられた多々良問題や駒沢大学問題です。

詳しく述べることは控えますが、宗門の大切な多々良学園を失い、ハイリスク投資(博打)に手を出し失敗し、駒沢大学まで失おうとしている。

ただ学校を失うだけではなくて、寄付金が使途不明であったり、H25・1地裁判決では敗訴、控訴した裁判間もなく裁判に負ける事がほぼ確実であり、莫大な賠償金支払いも待っている。

住職は考える④

すが、受けそうに疑問であり、また、私の疑問ではないという、理論的な根拠を教えてください。だいたいの間でございませぬ。能性も大きいと思っております。可(私)の方が間違っているから(すから)

私は道元禅師様の禅は(他の禅宗派もそうですが)正伝ではなく、むしろ悟りの一点に固執する独自の。獨創性が強い小乗仏教的で、マニアックな修行法として完成されたのではないかと、いう気がするので、し

い、この論それがない、く、素晴ら、れ、ので、す。

のた、ただ、正伝、の、と、お、い、わ、れ、の、と、違、い、が、目、の、つ、き、違、い、私、に、と、つ、つ、違、い、か、な、り、の、違、い、感、が、生、ず、る、の、と、で、い、う、こ、と、な、の、す。

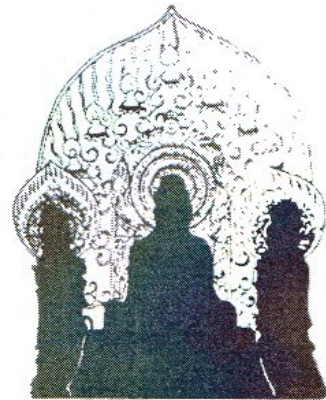
中国に渡り、道元様は



如淨禅師様の教えを受け、印可(悟りの証明)を授けられた。その如淨様の教えは、「都に住んではならぬ、権力者に近づくな、一里離れた深山幽谷に居し、一箇半箇を説得せよ」というものでした。決して説法の旅：万人に對し遊行説法をせよとの指導ではありませんでした。この決定的にお釈迦様の行履と異なる点です。随聞記ではこう述べられております。

天童寺における修行は、(よい)は二更(にこう)の三時まで坐禅し、(あかつき)は四更の二点三点よりおきて坐禅(朝)2時、夜10時半まで殆ど坐禅であった。約3時間の睡眠で、一日中全部坐禅をされたといふことが接心以上の厳しさです。大本山永平寺様の接心でもこ

なほ、どの日常底は道元様の爪の垢ほどもありません。



正師である如淨禅師様の教えは絶対だ、と思われたに相違ありません。

そして「不離叢林」とおっしゃいました。

私は布教師養成所で、自ら坐禅をされる眼蔵の大家であり、「道元様に恋した憧れの故水野弥穂子教授に質問しました。

「随聞記では『雲の如く定められる住所もなく、水の如く流れるゆきて、よる処もなきをこそ僧といふなり』と説かれています。『不離叢林』を説かれています。『不離叢林』を説か

他の講習生には申し訳なかつたが、講義後の休憩時間、下さつた。十五歳で難解語が並び、三なり、駒沢大学で宗学や仏教学を学んだ経験の全くな、い当時の私にとつては、理解不能の答えでありました。了

あとがき

今回も宗侶を意識しての論調となり、お檀家様には少し難しい文面になりました。た、申し訳ありません。宗門への失望が大きく、自らも悟りの境涯など、遠く拙僧は、憤りの口げなく、必然的に誌面には文章となつてしまいました。

しかし、私は問題意識を保持しないような僧侶は存在価値がないと思っております。

だからとえ、現在の役職を剥奪されようとも、私が言いたいことをい、疑いはあつた、何とて、解きたい、願つています。

乞諸大徳 慈悲容納